22. 肺疾患における2核種同時検査の意義 ……高橋 珠他…1257
23. 茨城県における核医学 in vivo 検査の現況 ……篠原 照彦……1257
24. ^{99m}Tc-MIBI による心筋血流シンチグラフィにおいて撮像開始時間が所見におよぼす影響についての検討 ……橋本 順他…1258
25. 運動療法前後における冠側副血行路機能の定量的評価 (SPECT)……三本 重治……1258
26. ^{111}In-血小板シンチグラフィが有用であった左室内血栓の1例 ……有竹 澄江他…1258
27. 小児に対するドブタミン負荷心筋 SPECT ……唐澤 賢祐他…1258

一般演題

1. モノクローナル抗体 A7 MoAb F(ab′)$_2$ によるヒト大腸癌の放射免疫学的診断の基礎的検討

久保寺昭子 (東理大・薬)

これまで，ヒト結腸癌より新たに作製されたモノクローナル抗体 A7 MoAb がヒト結腸癌にきわめて高い集積性を示し，本抗体の結腸癌に対する核医学的診断および治療への応用を示してきた．そこで，本研究では，本抗体による早期診断および抗原性の低減を目的として，フィシンにより，抗体フラグメント F(ab′)$_2$ を調製，抗体活性，生体内動態，およびイメージングの変化を A7 MoAb と比較した．この結果，フィシン8時間処理により収率よく F(ab′)$_2$ を得ることができた．本 F(ab′)$_2$ の抗体活性をヒト大腸癌細胞 (LS-174T) との結合活性から検討すると，A7 MoAb と比較し，その活性は約20％低下した．生体内動態およびイメージングについては，血中クリアランスが F(ab′)$_2$ で顕著に早められ，本フラグメント投与1日目で，A7 MoAb による投与3～5日目と同程度の鮮明画像を得ることができた．

2. ^{99m}Tc 標識抗 CEA モノクローナル抗体を用いた大腸癌の免疫シンチグラフィ

織内 昇 渡辺 直行 鈴木 英樹
舘野 円 冨吉 勝美 平野 恒夫
井上登美夫 遠藤 啓吾 (群馬大・核)
竹之下誠一 長町 幸雄 (同・一外)
杉山 純夫 (国立高崎病院)

^{99m}Tc 標識抗 CEA モノクローナル抗体 BW 431/26 を用いた免疫シンチグラフィを施行し，大腸癌への著明な集積を認めた．症例は54歳の女性で盲腸の分化型腺癌，大きさは直径約35 mm であった．血中 CEA 濃度は 2.6 ng/ml と正常上限であり，他の画像診断で転移巣は認めなかった．

BW431/26 1 mg に 1.11 GBq (30 mCi) の ^{99m}Tc を標識し，生理食塩液 100 ml に入れて点滴静注を行った．副作用は認められなかった．投与後6時間のプラナー像では病巣への集積は明らかとはいえなかったが，19時間後像では明瞭な集積像が得られた．病巣と対側正常部位とに設定した関心領域のカウントの比は 3.0 であった．SPECT 像におけるカウント比は 12.8 であった．投与後約24時間に切除術が施行され，得られた腫瘍組織，および正常大腸断端組織の放射能を測定したところ，その比は 14.7 であった．

3. CA130 の基礎的検討および乳癌症例を中心とした臨床応用

大塚 英司 (大和市立病院・内)

CA130 は各種婦人科腫瘍症例，とくに上皮性卵巣癌患者・卵管癌症例に高い陽性率を示し，その推移は臨床経過をよく反映する．さらに本法は肺癌症例にも高値を示すことが報告されている．

今回，本キットの基礎的検討に加えて，60例の健常者の年齢別・性別検討を行った．男性より女性が高値を示し，平均±SD は，14.0±5.0 U/ml であり，2 SD より 35 U/ml 以下を正常値とした．

乳癌症例46例中，転移病巣を有する10例のうち7例に高値を示し，CEA，TPA より有用であった．卵巣癌5例は全例に高値を示した．

Presented by Medical*Online